別紙　1

しまね学校図書館活用コンクール
応募票

学　校　名	津和野町立青原小学校

（　○　）
読書活動

1　取組の概要

2　読書活動の資料・作品・写真等

	活動等の名称	添付資料・作品等	添付数	活動中の写真の有無
1	読書ゆうびん	・読書ゆうびんの書き方の説明プリント ・児童の作品（デジカメで撮影）	1 3	(有)・無
2	読むぞうくん ラリー	・ラリーマップ（デジカメで撮影） ・各班のラリーの記録（コピー） ・児童の感想（コピー）	1 1 1	(有)・無
3	青原小本百選	・本百選の記録カード（デジカメで撮影） ・感想の掲示（デジカメで撮影） ・図書室の百選コーナー（デジカメで撮影）	1 1 1	有・(無)
4	おうちで 読むぞうタイム	・保護者へのお願いの図書だより ・家読の記録カード ・児童・保護者の感想 ・ＰＴＡからのお便り	1 2 2 5	有・(無)

（　　）
学校図書館を活用した授業実践

1　取組の概要

2　学校図書館活用教育年間計画　※どちらかに○をつけてください。　有　・　無

3　学校図書館を活用した授業実践の資料

	単元名・資料名	学年	教科	添付資料等	添付数
1					
2					
3					
4					

※　読書活動または学校項図書館を活用した授業実践のうち、いずれか一つに○をつけてください。

別紙　２

しまね学校図書館活用コンクール
取組の概要

学校名　津和野町立青原小学校

１　応募部門

（ ○ ）読書活動部門

（　　）学校図書館を活用した授業部門

２　実践のねらい

・読書の時間を確保し、友達、家族と共に楽しんで読書活動を取り組む。
・いろいろなジャンルの本や各学年に合ったよい本と出会わせ、読書の幅を広げる。
・本を読んだ感想を書く、おすすめの本を紹介するなど表現の場を設定する。

３　実践の概要

本校は、研究主題を『「読む力」を身につけ、豊かな人間性と情報活用力を育む図書館活用教育の推進』とし、子どもが主体的に読書に取り組むようになることをめざして、子どもに「本っておもいしろいな」と感じるきっかけと図書室に親しむ機会を作るようにさまざまな取り組みを行ってきた。主な活動は次のものである。

１．読書ゆうびん

読書週間の取り組みとして実施した。全校の子どもが自分の推薦する図書の紹介文を書き、読んでほしい相手にはがきとして届けるものである。相手は個人ではなく、「楽しい気持ちになりたい人へ」「わくわくしたい人へ」「スポーツが好きな人へ」などのようにした。投函されたはがきは昇降口に掲示し、みんなが見られるようにした。紹介した本は図書室にある本なので、友達が書いたはがきを見て、その本を借りて読んだ子どももいた。はがきやポストは、図書室に準備し、図書室に足が向くように配慮した。

２．読むぞうくんラリー

この活動は、読書郵便で紹介された本をお互いに読み合うために考案した。まず本を５つの全校縦割り班に均等に分け、班内で読む本と順番を決める。順番に読んで行き、一冊読み終わったら、コマを進めゴールを目指すものである。また、「読むぞうくん」は図書委員会が全校からデザインを公募して決定した青原小の図書室キャラクターである。自分の担当の本を読んだら感想を貼り、コマの「読む像くん」がどんどん進んで行く。毎日お昼の放送で図書委員が感想を紹介し、どの班がどこまで進んでいるか、友達が本を読んでどんなことを感じたかを伝えるようにした。掲示板の前で本の話をしたり、学年を超えて「もう読んだ？」と声をかけ合ったりする姿も見られた。どの班が速くゴールするのか全校でわくわくしドキドキしながら読書をすることができた。また、普段自分では選ばないジャンルを読むよいきっかけとなり、普段より厚い本に挑戦し最後まで読んだ達成感を感じている子どももいた。読んだ感想を書いてみんなに紹介することで、表現の場にもなった。

３．青原小本百選

本校では、国語の教科書の「読書の窓」で紹介されている本を中心にその学年でぜひ読んで欲しい百冊を「青原小本百選」として選んでいる。各学年のカードを配布し、読んだらシールを貼っていくこと

で意欲を高めるようにした。さらに一言感想を掲示し、友達が同じ本を読んでどんなことを感じたのか読み合えるようにした。その学年の本をすべて読むと認定賞を渡している。卒業するまでに百冊すべて読むことを目標に楽しく取り組んでいる。図書室では、百選コーナーを作り子どもが選びやすいようにしている。

４．おうちで読むぞうタイム

学校では、朝読書の時間などに落ち着いて読書をしているが、家庭でも主体的に読書をする子どもは少ない。そのため、ＰＴＡ文化部のテーマも「読書活動の推進」として家読を進める活動を行っている。家族で同じ本が読めるよう、保護者の方も図書室の貸し出しカードを作り、本を借りられるようにしている。2 学期の読書週間には、ＰＴＡからお便りを発行するなどして啓発活動を行った。家読を習慣化するために 3 学期は、月 1 回の家庭読書の日「おうちで読むぞうタイム」を設定した。家庭の都合を考慮し、金・土・日を設定している。家庭でも特にこの日は、意識して親子一緒に読書をしたり、本の内容について話し合ったりすることができた。

５．図書委員会の活動

（図書館キャラクター「読むぞうくん」・読み語り・校内読書週間・ブックトーク）

図書委員会も全校に読書活動を広めるために工夫して活動している。本や図書室に親しんでもらえるようにキャラクターを募集して投票で決定した。図書委員会の活動では、そのキャラクターを積極的に用いている。また、月 1 回昼休みに図書室で紙芝居や絵本などの読み語りを行っている。3 学期の校内読書週間には、読み語りの後に本の内容のクイズを行い図書室や本に親しんでもらうように工夫した。さらに、読書の幅を広げるために、朝読書の時間にブックトークを行い、いろいろなジャンルの本を紹介した。特に低学年に好評であり、紹介した本をすぐに借りる姿が見られた。

４　実践の成果

少しでも本を好きになって欲しい、楽しく本を読んで欲しいという願いから、いろいろな活動を行ってきた。読書の企画を行うたびに多くの子どもが参加し読書の輪が広がっている。読書ゆうびんや読書ラリーでは、どこまで進んでいるか話したり、友達の感想を読み合ったりと本を通して友達とつながることができた。また、ブックトークや読むぞうくんラリー、青原小本百選などいろいろな本に触れるきっかけを作ることができた。

家でも読書をしている子どもは、今年度 12 月のアンケート結果では、７１％となっている。学校だけでなくＰＴＡとも連携して読書活動を進めることができたことが良かった。「おうちで読むぞうタイム」は、これからも続け家読が定着するようにしていきたい。

今年度図書室の環境整備やデーターベース化を行ったこともあり、図書室に来室する子どもが増えた。図書室の貸し出し冊数は、昨年度、１年間で１人あたり１７冊の貸し出し冊数であったが、今年度は、３０冊にまで増えてきている。また、「あなたは、読書をするのが楽しいですか。」というアンケートでは、９５％の子どもが楽しいと答えている。子どもたちの気持ちを大切にしながら、どの子どもも進んで読書を行い、読書の幅を広げていけるように進めていきたい。